

【研究主題】

主体的・対話的で深い学びの実現に迫る授業改善

～食に関する指導の研究を柱に～

あいさつ

校長 戸坂和明

本校は、「『寄居中のあいうえお』明るいいあいさつ、いい返事、歌声元気に、笑顔と思いやり」を学校生活の基盤とし、学校教育目標の「自ら学ぶ生徒、人を尊ぶ生徒、自ら鍛える生徒」の育成を目指しています。このたび、埼玉県教育委員会、埼玉県学校食育研究会、埼玉県学校栄養士研究会、並びに埼玉県学校給食会より埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究の委嘱を受け、研究を進めてまいりました。食育を推進する上で、本校は生徒の望ましい食習慣の形成のため、給食の残飯（残菜）の量と献立（食材）や栄養量に意識を向ける子供たちを育てることに重点を置き、各教科等における授業改善を軸に体験活動や昼の放送、掲示物等の工夫・更新を通じて意識啓発に取り組んでいるところです。本日は、研究の一端を発表させていただきますが、皆様からの御意見、御助言をいただきながら、今後も研究を深めてまいりたいと思います。結びに、このような貴重な機会をいただき関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

I 研究概要

1 主題設定の理由

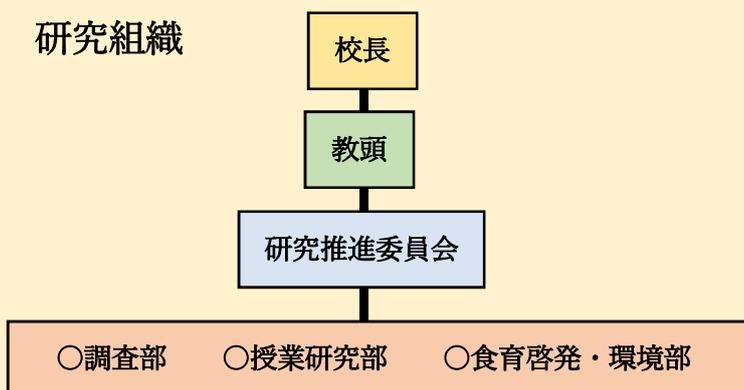
本校は「自ら学ぶ生徒、人を尊ぶ生徒、自ら鍛える生徒」を学校教育目標に掲げ、知・徳・体のバランスの取れた生徒の育成を目指している。

食についての学びを通して、規則正しい生活習慣を身に付け、主体的・対話的に学ぶ力、課題について深く考え解決する力を育てることにより、学力向上を図りたいと考え本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 教育活動全体を通して、生徒の発達段階に応じた食や健康に関する指導を行っていけば、食や健康への関心が高まり、規則正しい生活習慣が身に付くだろう。
- (2) 規則正しい生活習慣が身に付くことによって、学びに向かう力や集中力・持続力が高まり、主体的・対話的に学ぶ力や課題について深く考え解決する力を伸ばし、学力向上を図ることができるであろう。

3 研究組織



II 研究構想図

【学校教育目標】

自ら学ぶ生徒 人を尊ぶ生徒 自ら鍛える生徒

【本校の「食育」で目指す生徒像】

- (1) 食や健康に関する基礎的な知識・技能を身に付けることができる生徒(知識・技能)
- (2) 食に関心を持ち、日常生活に生かすことができる生徒(思考力・判断力・表現力)
- (3) 規則正しい生活習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組む生徒(学びに向かう力、人間性等)

【調査部】

望ましい食習慣を身に付けるための実態調査、分析

- ・6月、10月の食に関する生徒アンケートの実施と分析
- ・生徒アンケートのグラフ化と拡大掲示
- ・HPを活用した保護者アンケートの実施
〈アンケート結果から以下の取組を実施〉
- ・調査結果をもとにした職員研修の開催
- ・給食時の食育クイズの作成
- ・朝読書での給食だよりの黙読

等

【授業研究部】

各教科の特性を生かし、多面的な角度から「食育」に関する指導を行う授業の開発

- ・(株)雪印メグミルクによる出前授業(家庭科)
- ・食品ロスについて(国語)
- ・食べ物と身体に関わるエネルギー(理科)
- ・食に関わる英作文(英語)
- ・日本の農業自給率高騰化(技術)
- ・農薬について(技術)
- ・栄養素について(家庭科)
- ・郷土の食材についての調べ学習(総合)
- ・自分の食生活を見直し学力アップ(学活)
- ・生活習慣病予防の食事(保健体育)

等

【食育啓発・環境部】

望ましい食習慣を身に付けるための環境づくり

- ・保健委員会や給食委員会による掲示物の作成
- ・パソコン部や芸術部と協力し、手に取り、生徒たちが楽しめる掲示物を作成
- ・各学年のフロアに掲示物を製作し、定期的に入れ替え
- ・各学年の取組を他学年のフロアにも掲示
- ・放送委員会の放送原稿を掲示し知識を再確認

等

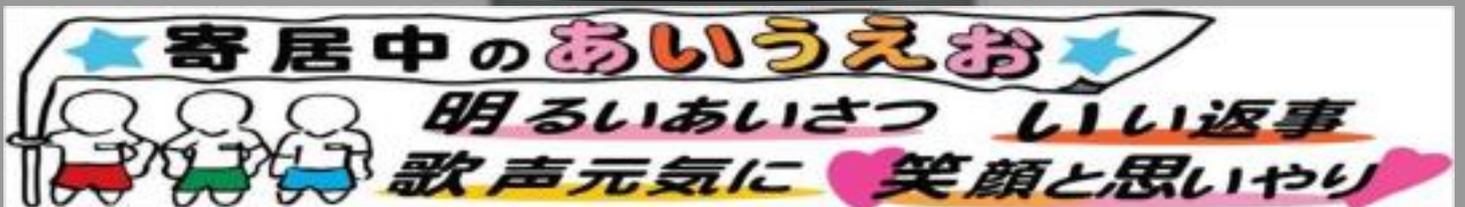
【研究仮説】

- (1) 教育活動全体を通して、生徒の発達段階に応じた食や健康に関する指導を行っていけば、食や健康への関心が高まり、規則正しい生活習慣を身に付けることができるであろう。
- (2) 規則正しい生活習慣が身に付くことによって、学びに向かう力や集中力・持続力が高まり、主体的・対話的に学ぶ力や課題について深く考え解決する力を伸ばし、学力向上を図ることができるであろう。

【研究主題】 主体的・対話的で深い学びの実現に迫る授業改善 ～食に関する指導の研究を柱に～

【生徒の実態】 ～6月実施のアンケート集計より～

- ・給食を楽しみにしている生徒が約85%いるが、給食献立表を見て献立(食材)や栄養量を確認している生徒は約30%である。
- ・朝食を毎日食べている生徒は約95%。毎日同じ時間に起きられない生徒が約6%いて、毎日同じ時間に寝られない生徒が約10%いる。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)」の質問に対して、10分未満の割合が約42%である。



III 各部の実践

1 授業研究部

第1学年 技術・家庭科（家庭分野）

『(株)雪印メグミルク食育出前授業の取組』

ねらい

- ・カルシウム摂取の必要性と効果的な摂取方法を理解し、自ら実践する態度を養う。

生徒の感想・振り返り

- ・給食で出てくる牛乳を残すことで、半分もカルシウムが失われるということにびっくりしました。
- ・丈夫な体をつくるために、カルシウムが含まれる食べ物を摂っていきたいです。
- ・手首の骨は15歳で完全に大人になることがわかりました。これからは、毎日牛乳を飲んで、カルシウムをたくわえていきたいです。



出前授業の感想



第3学年 技術・家庭科（技術分野）

題材名 『動物(鶏)の飼育に関する技術』

～鶏を飼うメリットからテーマに迫ろう～

ねらい

- ・家畜を健康に飼育しながら、自分の食生活を見直し、持続可能な社会の構築につながるにはどうしたらよいか考える。

生徒の感想・振り返り

- ・食料をつくることの大変さやありがたみを感じることができました。
- ・命をいただくということを身近で感じる学習でした。
- ・鶏の糞が家庭菜園で使えるところがすごいです。循環サイクルですね。



第2学年 理科

題材名 『動物のからだのつくりとはたらき』



ねらい

- ・体の中に取り込まれた食べ物が、どのように消化され、使われるかを調べ、発表する。

生徒の感想・振り返り

- ・消化吸収器官のつくりについて調べて、1つ1つが違うとても大切な働きをしているのだなど、体の大切さについて学びました。
- ・栄養分を取り入れることで、自分たちの体には何が起るのか、仕組みについても知ることができました。

特別支援学級 生活単元学習

題材名 『食分の献立を考えよう』

～献立の作成～

ねらい

- ・献立の構成要素と作成手順をわかるようにする。
- ・作成した献立のバランスを調べることができるようにする。

生徒の感想・振り返り

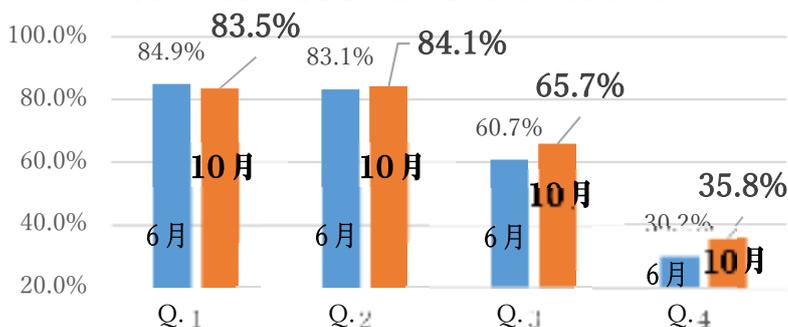
- ・献立で工夫したことは、はじめは何か物足りないと思ったので、みそ汁を組み合わせました。牛乳はカルシウムが豊富だから入れました。1群から6群では、6群を多く摂りすぎてしまっていて、バランスが偏っていると思いました。



2 調査部

食育に関するアンケート結果

『している』・『どちらかといえばしている』の合計



- Q.1 給食の時間を楽しみにしている
- Q.2 給食を残さず、全部食べようとしている
- Q.3 給食の残飯(残菜)が多いと気になる
- Q.4 給食献立表を見て、献立(食材)や栄養量などを確認している

調査結果を職員研修で共有・分析し、全体で成果と課題を考察した。

<分析・考察>

- 6月と10月のアンケート結果を比較すると、Q.1は-1.4%、Q.2は+1%、Q.3は+5%、Q.4は+5.6%であった。
- Q.1の質問について、コロナ禍で給食は前向き無言で食べていたことで、「楽しみ」という回答が減少したと思われる。
- 残飯(残菜)や献立・栄養量を意識した取組を重点的に行った結果、4項目中の3項目で意識の高まりがみられた。

3 食育啓発・環境部

食育コーナー(各学年のフロア)



1年

朝ごはんを食べよう(保健室前)



2年

わたしのお弁当カード(昇降口前)



3年

献立を作ってみよう(芸術部による作品)



和食について(給食室前)



お弁当を食べている光景



生物育成・トマト生産(他学年フロアにも掲示)

食育クイズ(パソコン部による作品)



IV 成果と課題

1 研究の成果

- 「もったいないから残さない」「朝ご飯は何を食べた?」「何を食ったら体が大きくなるかな?」等の会話が聞かれるようになった。
- 献立を見る生徒が増え、献立から食に関する話題が広がっている。
- 給食の残飯(残菜)を実感させたり、残飯(残菜)を減らすための取組を実施したりしたことで、残さず全部食べようとする意識が高まった。(アンケート結果 Q.2, 3 参照)
- 献立表や給食だよりを全校一斉に読む時間を設ける等の取組により、献立(食材)や栄養量を確認するようになってきた。(アンケート結果 Q.4 参照)
- 給食中は前向き無言で食べているため、放送クイズ等をしっかりと聞くことができ、よく考えていた。それが結果にもつながった。



2 今後の課題

- (株)雪印メグミルクの出前授業など、効果の高い授業を次年度以降も継続していくことで、栄養のバランス等にいっそう関心を持たせることが課題である。
- 食育に関する様々な取組を定着させていくと同時に、町の食育の日とタイアップするなど新たな取組を実現し、継続して生徒の望ましい食習慣を形成していくことが課題である。



寄居中のイメージキャラクター「よリモっち」